

しらぬか

2022.10.25 NO.158

議会 だより

- 2 令和4年第3回定例会概要
- 6 令和3年度決算の概要
- 10 一般質問5名
- 16 委員会・協議会の活動
- 18 常任委員会所管事務調査報告
- 20 特別委員会所管事務調査報告

ありがとう 荒浜小学校

あらためて津波の威力に驚く!!

(総務文教常任委員会)

●**重度心身障がい者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例**

高齢者の医療の確保に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、重度心身障がい者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正。

●**白糠町営バス運行に関わる施設の設置及び管理に関する条例**

現在の町営バスターミナルを廃止・解体し、JR白糠駅舎内に仮設のバスターミナル事務所を設置することに伴う条例の一部改正。

●**白糠町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例**

北海道が定める公衆浴場入浴料金の統制額が道知事より告示され、温浴施設の利用料金の上限額を改定する必要が生じたことに伴い、白糠町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正。

契約の締結

アイヌコタン再生整備工事

≪改修工事 8,855万円≫

旧チセを活用し、コタンの生活空間を再生展示する資料館的な施設とするため、屋根、基礎、柱の補修工事、外壁や床の張り替え、内装に事務所、作業所、トイレの設置と電気・暖房設備一式などの工事。

質疑・答弁

- 問 今まで外にあったトイレの改修内容は。
- 答 アイヌ協会と協議して今まで外に設置していたトイレを内部に設置することとした。
- 問 なぜ外ではなく、旧チセの中にチセを復元するのか。
- 答 外だと維持管理が大変なため、旧チセの中にミニチュア版のチセを作る。今までは物を置く資料館だったが、今はデジタル化でいろんな見せ方ができるので、施設を資料館的なチセにする計画でいる。

条例等

一部改正

●**年末年始の休日変更に伴う関係条例の整備に関する条例**

年末年始の休日期間を12月29日から1月3日までに変更することに伴い、白糠町の休日を定める条例など13条例の改正。

【改正13条例】

- ・白糠町の休日を定める条例
 - ・白糠町職員の勤務時間、休暇等に関する条例
 - ・職員の給与に関する条例
 - ・白糠町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例
 - ・白糠町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例
 - ・白糠コミュニティホールの設置及び管理に関する条例
 - ・白糠町児童館条例
 - ・白糠町子ども発達支援センター条例
 - ・白糠町地域活動支援センターの設置及び管理に関する条例
 - ・白糠町チセの設置及び管理に関する条例
 - ・白糠町スクールバス住民利用条例
 - ・白糠町酪農研修センターの設置及び管理に関する条例
 - ・白糠町企業職員の給与に関する条例
- 問 総合体育館や温水プールの施設の条例も変わるのか。
- 答 総合体育館、温水プールは、これまで12月29日から1月5日まで、総合体育館は、これに準じている。ただし温水プールは、指定管理者（株オカモト）との協議により、温浴施設があるので12月31日から1月3日までの休日となっている。

●**白糠町職員の育児休業等に関する条例**

妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援に関し、国家公務員に準じた措置を講じるための改正。

●**町税条例**

地方税法等の一部改正により、住民税申告に係る各規定の見直し、納税証明書の交付及び固定資産課税台帳の閲覧や証明書の交付に関する見直し、住宅借入金等特別税額控除の延長等に伴う見直しの改正。

- 問 町民への周知方法は。
- 答 町広報やチラシによって周知を図る。

4年度補正予算

一般会計補正予算（専決含む）

補正合計 1億8,707万9千円
総額 173億1,618万8千円

●増額	
新型コロナウイルス感染症対策	2,000,000円
新型コロナウイルスワクチン接種対策費	20,656,000円
インフルエンザ予防接種業務	10,860,000円
町道維持管理業務	25,000,000円
し尿処理関係	5,431,000円
太陽のまち定住奨励助成金	13,000,000円
企業活動支援条例補助金	65,000,000円
白糠高等学校の学生寮整備	40,300,000円
返還金	2,762,000円
繰出金	1,573,000円
その他	497,000円

質疑・答弁

- 問 学生寮の入居の要項等は決定しているのか。
- 答 次回の定例会に設置条例を制定するように準備を進めている。その中で入居の要項、手続き関係を定めたい。
- 問 学生寮の男女の区別はどうするのか。
- 答 部屋は男女別に分け、お風呂等の関係も男女別々に使用できるように整備をする。
- 問 学生寮の管理体制はどのように考えているのか。
- 答 条例の中で直営の管理、もしくは指定管理もできるように整備をしたい。
- 問 町道維持管理業務の7月23日低気圧による復旧箇所の内訳は。
- 答 町道17路線、農道4路線、林道4路線、合計25路線。路面洗堀が全体延長が11,190m。路肩決壊が全体で69.5m。法面崩土が全体延長で640m。合計で2,500万円となっている。
- 問 マスクさえはずせないこんな状況でインフルエンザがまん延するなんて到底考えられない、町民にも啓もうする必要もあると思うが。
- 答 インフルエンザについては、広報等で情報提供をしていくが、ワクチンは、希望の方に接種するものである。

第3回 定例会

- 9月12日
 - ・行政報告
 - ・所管事務調査報告
 - ・特別委員会報告
 - ・一般質問
 - ・専決処分の承認（補正予算）
 - ・令和3年度の決算審査を特別委員会に付託
- 9月13日
 - ・令和4年度補正予算
 - ・条例改正
 - ・工事請負契約の締結
 - ・財産の取得
 - ・教育委員会教育長任命の同意
 - ・教育委員会委員任命の同意
 - ・固定資産評価審査委員会委員選任の同意
- 9月15日
 - ・令和3年度決算審査特別委員会審査報告
 - ・令和4年度補正予算
 - ・意見書
 - ・議員の派遣

決算審査特別委員会

令和3年度一般会計及び特別会計の決算審査のため、議長と議会選出監査委員を除く10名の議員により「令和3年度白糠町各会計決算審査特別委員会」を設置しました。

委員長に小野キサ議員、副委員長に澤原孝行議員を互選し、9月14日、15日の2日間にわたり、各課から実施した事務事業の説明を受け、慎重に審査を行いました。

決算の内容は、6ページから9ページに掲載しています。

教育長の任命等

教育委員会教育長の任命

12月2日に任期満了を迎える教育委員会教育長について、新たに任命の同意をしました。
・川島 眞澄 氏 (再任)



教育委員会委員の任命

11月23日に任期満了を迎える教育委員会委員について、新たに任命の同意をしました。
・大坪 洋一 氏 (再任)

固定資産評価審査委員会委員の選任

9月30日に任期満了を迎える固定資産評価審査委員会委員の選任の同意をしました。
・後藤 毅俊 氏 (再任)

意見書

●国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書可決した意見書は、内閣総理大臣をはじめ関係大臣、衆・参両議院議長に提出しました。



次回の定例会は
12月上旬の予定

財産の取得

高規格救急自動車の取得

平成21年10月に整備した「高規格救急車」に
変え、新たな「高規格救急自動車」を取得しました。

質疑・答弁

問 今までの救急車と違う整備はどのようなものか。

答 人口呼吸器、現場急行システム (FAST)、輸液
用資機材として保温庫、血中ガス測定器(ポケッ
ト SPO2 モニター、ポケット CO2 モニター)、
ビデオ喉頭鏡など、最新の機能となる。

所管事務調査報告

総務文教常任委員会

「津波避難タワー及び徒歩と自動車を組み合わ
せた津波避難」について調査結果を報告しました。
報告の内容は、18～19 ページに掲載してい
ます。

道の駅「しらぬか恋問」移 転改築及び白糠駅前広場 整備事業調査特別委員会

「道の駅「しらぬか恋問」移転改築及び白糠駅
前広場整備事業に関する事」について調査結果
を報告しました。

報告の内容は、20～23 ページに掲載してい
ます。

議員の派遣

釧路町村議会議員研修

釧路町村議長会主催による議員研修会への派遣
を承認しました。

日時：令和4年11月17日から18日
場所：弟子屈町
対象：全議員

行政報告

外国語指導助手の着任

●外国語指導助手 ケチャム・ジャクリン・クレアさんが7月に、ボーダリオ・ジェシー・ニコールさん
が8月に着任したことが教育長から報告されました。

ボーダリオ・ジェシー・ニコールさん着任あい
さつ (抜粋)

私は、長い間、日本の文化に関心がありました。
グアムにとって日本はとても身近な存在でした。
さらに、大学での日本に関する学びは、私の大学
生活が豊かになりました。新しい視点を得ること
や異なる背景を持つ人と経験を共有することの
大切さを学びました。

今、私は白糠町で貴重な経験をすることができ
る期待でいっぱいです。

私は、主に庶路学園に勤務します。私が白糠町
にいる間に庶路学園の子どもたちが、一層英語に
興味をもつことができるよう頑張りたいと思いま
す。



ケチャム・ジャクリン・クレアさん着任あい
さつ (抜粋)

私は、この7月に、白糠町のALTとして、着
任しました。知らない土地に来てわからないこと
がたくさんありますが、白糠町の皆さんに親切に
してもらい、感謝しています。

私は、主に茶路小中学校に勤務します。茶路小中
の子どもたちは、英語に興味をもって意欲的に勉強
しています。私はそのお手伝いをしたいと思います。

これからも、日本語と日本文化を学び、白糠町
の人たちや子どもたちと文化を共有して、地域に
貢献できることを楽しみにしています。

精一杯努力しますので今後ともどうぞよろしく
お願いいたします。



表彰

議会議員として15年以上在籍した者として、
北海道町村議会議長会より富田議員が表彰を受け
ました。



お詫びと訂正



前号の22ページの議員の目について、
③の()内の記載が「合葬墓」となっ
ておりましたが、正しくは「樹木葬」で
したので、お詫び申しあげると共に訂正
させていただきます。

救急・消防・防災には？

消防業務の委託

3億2,265万円

(町3億2,265
前年3億1,693)

担当：地域防災課消防調整係

- 消防人件費 2億8,845万円
 - 事務費等 1,664万円
 - 委託管理費 1,756万円
- 現在は常備消防の業務を釧路市に委託しています。

消防設備の整備

9,103万円

(補198 町827
債820 他7,258
前年1億7,948)

担当：地域防災課消防調整係

- 消防団等の装備更新 879万円
- 旧白糠消防庁舎外解体 7,441万円
- 高度救急資機材整備 783万円

防災・減災対策

1,015万円

(補100 町265
債650
前年3億3,569)

担当：地域防災課地域防災係

- ハザードマップ作成 210万円
 - 地域防災の体制強化 805万円
- 千島海溝沿い地震の災害想定を受け、速やかにハザードマップの更新を行い、全戸に配布しました。

生活環境には？

し尿処理

7,847万円

(町4,428 他3,419
前年8,087)

担当：町民サービス課生活環境係

- し尿汲み取り費用 7,793万円
 - 合併処理浄化槽補助金 54万円
- 下水道を接続している家庭等の処理分については、下水道事業特別会計で対応しています。

ごみ処理

1億9,656万円

(町1億1,689
債4,260 他3,707
前年1億9,648)

担当：町民サービス課生活環境係

- ごみの収集・処理 1億5,209万円
- 環境美化の推進 183万円
- 清掃工場の設備性能維持 4,264万円

令和3年度



まちのお金は 何に使った？

PICK UP!

公共施設には？

道路・橋・河川の管理

9億2,623万円

(補3億5,957 町2億8,340
債2億8,150 他176
前年10億2,667)



担当：建設課土木都市計画係

- 道路維持・改良舗装 6億814万円
- 橋の架換・補修 2億9,697万円
- 河川管理・排水路整備 2,112万円

道路の維持は草刈りや補修、除雪等にかかる経費です。

橋の補修では茶路橋、川島橋、恋隠橋、千国橋4橋の補修工事を行いました。

施設の管理

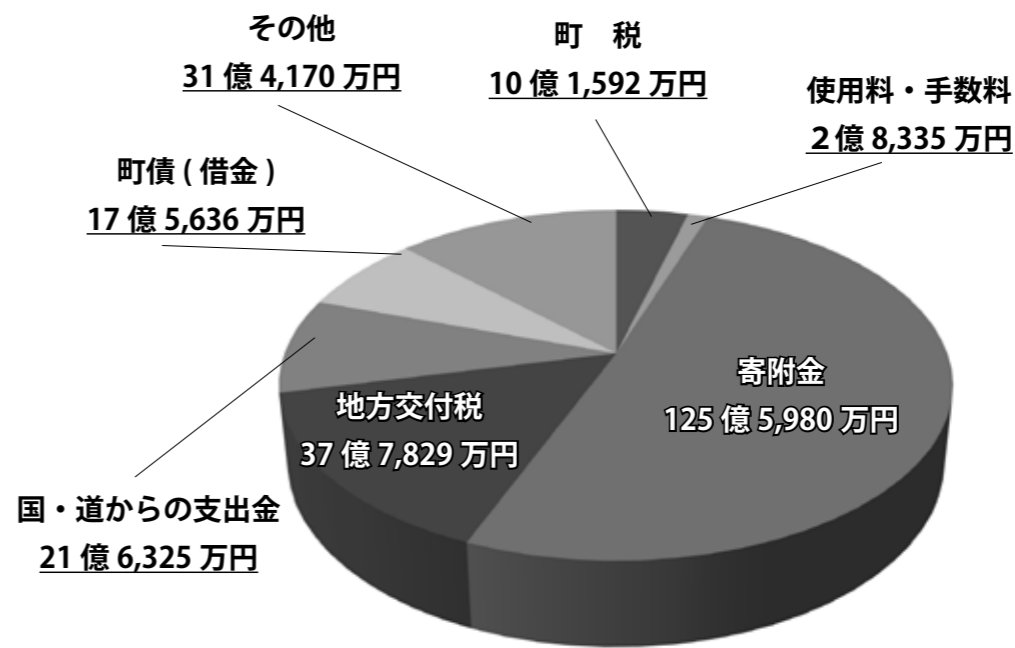
6億9,043万円

(補1億5,200 町1億9,151
債2億7,440 他7,162
前年2億6,864)

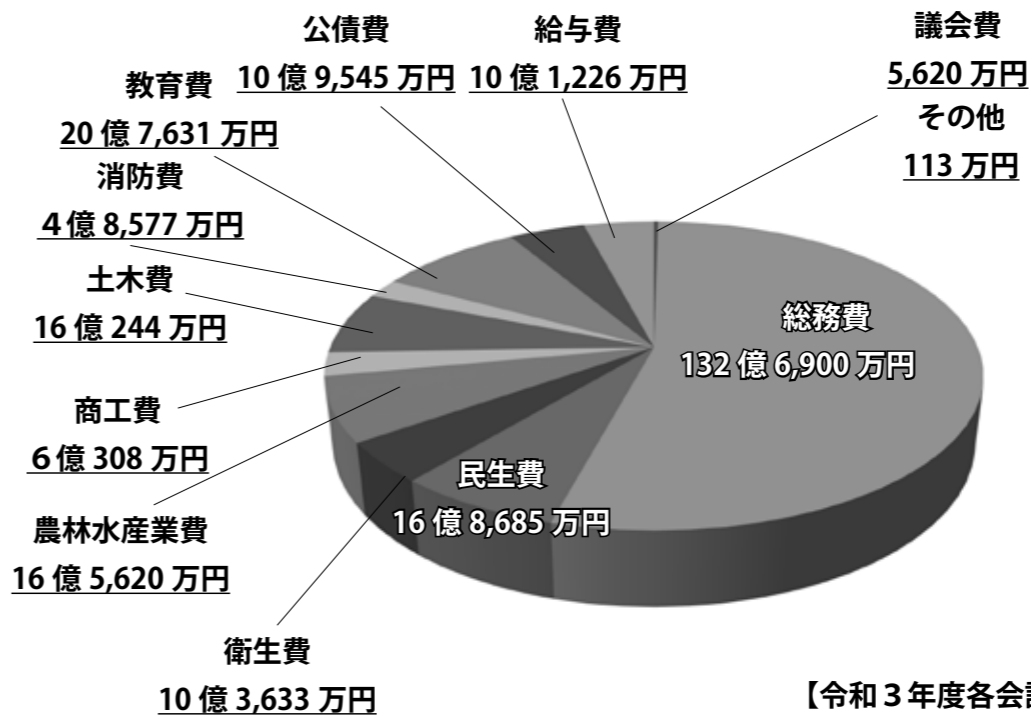
担当：企画財政課
契約管財係ほか

- 公営住宅の改修等 7,347万円
- 自然公園等改修 1億9,922万円
- 各集会所の管理 1,906万円
- 西庶路寿の家改築 620万円
- 振興センター改修 2,601万円
- やまびこ会館改修 1,885万円
- 坂の丘公苑墓地 8,479万円
- その他の施設管理 2億6,283万円

▼一般会計歳入 246億9,867万円



▼一般会計歳出 245億8,102万円



令和3年度末基金合計 137億2,417万円

前年比36億9,457万円の増 ↑人口1人当たり※約187万円

令和3年度末町債残高 139億5,077万円

前年比6億9,136万円の増 ↑人口1人当たり※約190万円

※令和3年度末人口7,351人

※この内、交付税の計算に算入される優良債がおよそ8割を占めます。

【令和3年度各会計決算額】

	歳入	歳出	差し引き
一般会計	246億9,867	245億8,102	1億1,765
国民健康保険特別会計	9億5,700	9億4,691	1,009
簡易水道及び飲用水道供給事業特別会計	8,081	7,729	352
公共下水道事業特別会計	7億6,241	7億5,194	1,047
介護保険特別会計	10億5,480	10億3,918	1,562
後期高齢者医療特別会計	1億3,785	1億3,780	5
合計	276億9,154	275億3,414	*1 1億5,740

(※1 差し引き後、残金の一部を積立等を行い、残りを繰り越しました。)

令和3年度決算の概要

過去最高決算額、245億円!!

〔内〕は財源内訳と前年実績額。

〔補〕は国や北海道からの補助金。

〔町〕は税金等の町のお金、〔債〕は町債・借金、〔他〕は団体補助金・利用者負担等、単位は万円。

文化・スポーツには？

スポーツ施設の管理

2億3,288万円

(町2億1,030 他2,258 前年4億2,388)

担当：社会教育課スポーツ推進係

- 総合体育館やパークゴルフ場等の管理 8,425万円
- 温水プールの運営 3,791万円
- スポーツ広場改修事業 1億1,072万円

文化活動団体への助成

288万円

(町78 債210 前年324)

担当：社会教育課文化振興係

- 郷土芸能団体への助成 44万円
- 芸術文化鑑賞会の開催 112万円
- 観光地域づくり推進事業 132万円

その他

ふるさと納税

69億4,539万円

(他69億4,539 前年56億5,070)

担当：企画財政課ふるさと納税推進係

- 寄附額 125億2,107万円
- 寄附額の内左記を返礼品代等として、残りの55億7,568万円を町の基金に積み立てました。

工業用水道

8,603万円

(町8,603 前年9,316)

担当：企画財政課企業誘致係

- 釧路白糠工業用水道企業団負担金 8,603万円
- 釧路白糠工業団地へ工業用水を供給している企業団に対し、負担金を支出しました。

人件費

13億4,698万円

(補6,599町12億1,819 他6,280 前年13億941)

担当：総務課職員係ほか

- 議員・各委員等報酬 2億3,494万円
- 職員給料・手当 8億2,520万円
- 共済費等 2億8,684万円
- 新型コロナウイルスワクチン接種等による超過勤務手当が増えたことにより、前年の人件費を上回りました。

教育には？

学校施設整備・管理

11億2,850万円

(補1億4,038町2億6,982 債7億1,830 前年8,256)

担当：管理課学校建設係

教育環境の整備

9,858万円

(補2,798町6,887 他173 前年9,498)

担当：管理課総務係 学校教育係

- 白糠小中学校外統合事業 11億2,850万円
- 白糠小学校の防災対策の重要性を踏まえ、中学校に統合するための統合工事等を実施しました。

- 就学の支援 541万円
- 教育環境の充実 5,940万円
- 白糠高校の魅力化 3,377万円
- 入学支援金として、児童・生徒1人につき2～3万円の商品券を配布しました。

高齢者には？

高齢者福祉

1,047万円

(補34町171 他842 前年937)

担当：介護福祉課高齢者支援係

新型コロナウイルス感染症対策には？

感染症対策

7億8,583万円

(補6億2,779 町894 債1億4,910 前年10億9,374)

担当：総務課総務係ほか

- 生き活かしらぬか事業・健康入浴 52万円
- ふれあい交流事業 246万円
- 外出支援助成 552万円
- 高齢者団体等への支援 197万円

- 経済対策関係 3億8,136万円
- 公共施設等の対策 4,892万円
- 住民への対策 3億4,877万円
- 教育施設等の対策 678万円

医療・健康・介護には？

医療費の助成等

3億2,001万円

(補9872町2億1,419 債530他180 前年2億8,947)

担当：町民サービス課保険年金係 介護福祉課社会福祉係 健康こども課子育て支援係

健康管理と介護

2億1,854万円

(補440町2億1,024 他390 前年1億9,993)

担当：健康こども課健康推進係 介護福祉課介護保険係

- 国民健康保険特別会計への支出 8,022万円
- 後期高齢者医療特別会計等への支出 1億7,811万円
- 障がい者医療費の助成 1,589万円
- 子どもへの医療費の助成 1,820万円
- ひとり親家庭等医療費の助成 361万円
- リハビリテーション医療への支出 2,398万円
- がん検診・基本健診等 2,071万円
- 介護保険特別会計への支出 1億9,300万円
- 保健施設の管理 483万円
- 健康診査事業のほか、予防接種事業やがん検診を実施しました。

出産・子育てには？

出産支援

845万円

(補25町680 債110他30 前年858)

担当：健康こども課健康推進係 健康支援係

子育て支援

1億8,919万円

(補1,429町1億5,330 債2,160 前年3億7,509)

担当：健康こども課子育て支援係 学校給食センター

- 不妊治療費の助成 216万円
- 妊産婦の交通費助成 30万円
- 母子健康手帳交付等 489万円
- 出産祝い金 110万円
- 認定こども園の運営等 4,192万円
- 児童館の運営等 3,513万円
- 保育料の無料化等 1,833万円
- 給食費の無料化等 9,381万円

産業振興には？

商業振興

6,127万円

(補35町2,472 債690他2,930 前年2,674)

担当：経済課商工係

農業振興

8,701万円

(補3,965町2,498 債1,500他738 前年1億3,833)

担当：経済課農政係



林業振興

1億9,381万円

(補9,412町6,329 債3,070他570 前年1億6,714)

担当：経済課林業係

水産業振興

1億4,555万円

(補1,950町7,960 債2,850他1,795 前年1,257)

担当：経済課水産係



海洋調査の様子

- 商工経済団体への支援 1,528万円
- しらぬか魅力発信事業 1,599万円
- 東京23区等との広域的な連携 70万円
- 新産業創造等促進事業 2,930万円

- 新産業構築事業 161万円
- 道営草地整備事業 934万円
- 農業振興団体協議会への助成 357万円
- 農業者・集落等への支援 5,144万円
- 畜産クラスター事業の推進 1,500万円
- 新規就農者等支援事業 523万円
- 畑作の振興 82万円

- 林業団体への支援 147万円
- 林道の整備 1,874万円
- エゾシカ被害対策 5,444万円
- 民有林の整備 1,544万円
- 町有林の整備 1億372万円

- さけ中間育成施設・ししゃも人工ふ化場管理 757万円
- マツカワ種苗購入事業の支援 100万円
- 漁船操業用機器等の購入支援 243万円
- 白糠漁港の整備 2,867万円
- 海洋調査 7,688万円
- 漁船保全修理施設改築支援 2,900万円

〔内〕は財源内訳と前年実績額。〔補〕は国や北海道からの補助金。〔町〕は税金等の町のお金。〔債〕は町債。〔借〕は借入金。〔他〕は団体補助金・利用者負担等、単位は万円。

問いかけ 提案する

一般質問

議員5名が15件21項目について質問しました。
※一般質問は1人90分以内で、町長・教育長に対して広く町政に関する説明を求めます。

石田 正義 議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・11ページ

- 1 道立公園について
- 2 漁業の振興について
- 3 役場庁舎の改築について

坂本 勝雄 議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・12ページ

- 1 小学生のカバン荷物の重すぎについて
- 2 晩墓地の整備について

澤原 孝行 議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・13ページ

- 1 津波の災害対策について
- 2 コロナ対策について

中河 敏史 議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・14ページ

- 1 エゾシカによる被害対策について
- 2 新規就農者への支援について
- 3 家畜感染症対策について
- 4 タンチョウの対応は

福地 裕行 議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・15ページ

- 1 極小の自然遺産について
- 2 温排水の利活用等について
- 3 コロナ狂騒曲について
- 4 魚類の養殖について

※掲載している内容は、質問者自身が要約し広報広聴調査特別委員会
が校正したものです。

一般質問



石田 正義 議員

答あくまでも道が主体であるが、地元振興局も一体となつてやっている。

問大枠の部分はどうか、でも地元振興局などが、末端の部分は役目としていけるのではないか。

答道立広域公園の整備は、北海道の財政事情など説明を受けた中で、民間活力の導入や管理運営を含め、地元市町村との役割分担や新たなスキームでの取り組みなどについて協議を進めている。

問道立広域公園誘致の進捗状況を伺う。

答道と連携を図りながら取り組んでいく

問

道立広域公園誘致について

問地元として、横断幕を掲げるなど積極的に取り組むべきではないか。

答本年3月釧路市民による「道立公園建設を求める市民の会」が立ち上がり、庁舎正面に、「白糠に道立広域公園の早期整備を！」との横断幕が掲示された。他弟子屈町、鶴居村にも掲示されている。今後は、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町も予定しているところ聞き感謝申し上げるところである。

問恋問はPR効果はあると思いが、地元の人々にはわかりづらい。

答例えば釧路交通のバスに書いて走らせるなどどうか。

問いろいろなPR方法を考え、取り組んでいく。

答（株）おこしエネルギーが元々自社で人工ふ化を行っている場所と、掘削専門学校敷地内の2ヶ所でパシクルの成

問パシクルの成員を使ってということだが、パシクル沼は釧路市になるのではないか。

答漁業青年部が中心となりエゾバイツブやヤマトシジミの増養殖に取り組んできた。本年度より（株）おこしエネルギーの好意のもと、パシクル沼の成員を使って、来年度放流に向けたヤマトシジミの人工ふ化の実証実験を始めた。

問今年度から白糠漁業協同組合がホタテの養殖に取り組んでいる。その他の取り組みについて伺う。

答増養殖事業の取り組みに期待し、支援協力していく

問

漁業振興について

問建設より40年近く経過し改修計画が必要と思うが伺う。

問

役場庁舎改築について

答実態調査をし、財政等見きわめ計画的に検討していく

答外壁のいたみや、内部は雨漏り各所、窓の開閉が出来ないなど劣化が各所に見られる状態であり、開口部分や外壁ボイラー配管など含めて、庁舎の長寿命化を図るために大規模改修に向け検討を進めている。



坂本勝雄 議員

問 小学生のカバン荷物の重すぎについて

答 平成30年にも取り上げられていた

問 小学生・園生の登下校のカバン荷物の重すぎが最近社会問題になっている。白糠町についても例外ではない。毎朝、庶路学園の生徒の登校の見守りで見ているがランドセル、水筒、日によって変わるが、習字、絵の具セット、水泳、スケート、部活等のたびに手に持てないくらいの荷物である。このような状況をどう認識して、今後どのように取り組んでいくのか伺う。

に持ち帰らせるか、また、何を学校に置くこととするかについて、保護者等と連携し、児童生徒の発達段階や学習上の必要性、通学上の負担等を考慮して児童生徒の携行品の重さや量について適切な配慮を講じる」ことについて検討するよう示された。これを受け、本町の各学校も、児童生徒が学校に置いてもよい教材等を提示することとした。

問 今迄に保護者から問合わせがなかったのか。

答 3年前より現在に至るまで、各学校では参観日や保護者会等において、また、日常的にも、保護者からの問合せは無い状況である。

問 教材などを置いて帰ることができないのか。

答 基本的に学校で決められた一部の教材などを学校に置いて帰ることはできるようにしている。

本町の学校において、学校に置いてよい学習用具は、例えば、家庭学習で使用しない副教材、習字セット、算数セットや絵具セット、リコーダー

や鍵盤ハーモニカ、また、時期によりスケート道具等である。これらの学習用具は学校に置いておけるよう教室内に児童個別のロッカーを設置し、学習用具を収納できるようにしている。

問 子どもの成長期に6kgから10kgの荷物を持つことで成長への影響は。

答 町内の各学校においては、児童の通学時の安全確保と負担軽減に配慮しているが、改めて、学校に置いてよい教材等を確保するとともに、教材等を使用する時期をずらすなどして持ち物の分散化を行い、児童の発達段階や体格に応じた指導等により一層取り組む所存である。

問 曉墓地の整備について

答 約95mの区間が民有地である

問 道道上庶路停車場線から曉墓地に至る道が未舗装道路である。道路の改修と待避場の設置が必要と思うが伺う。

答 この未舗装道路の町道延長490mのうち、約95mの区間が民有地となっている。その土地の所有者は周辺の山林も広く所有し、過去に土地売買等の協議を進めた経過があるが、所有する土地に抵当権が設定され、道路部分のみの抵当権の抹消が困難であることから、町としては抵当権が抹消されなければ取得することができないので、抵当権を抹消した後に寄付及び交換をするという事で承諾書を頂き、それまでの間は町道として使用することの了解を得て、現在に至っている。

問 曉墓地には、水汲み場所も無くお墓の掃除等が大変との事である。水道の設置が必要と思うが伺う。

答 ご質問の曉墓地への水道の設置については、水道施設を整備するには道路用地へ水道管を敷設する必要があるため、先ほどの道路整備のご質問でもお答えしたとおり、用地の処理が済んでいないことから、現状では水道を整備する(水道管を敷設すること)ことはできないと考えている。



澤原孝行 議員

問 今後の津波対策について伺う

答 安全に避難できる施設の整備の検討を進める

問 一人でも多くの方が、避難できるよう避難場所迄に中間避難場所を設置する考えがないか伺う。

答 昨年12月に国が公表した最大被害想定において厳冬期・積雪期の避難を想定することとなった。それらを考慮すると、いち早く避難することが重要であり、中間避難場所の整備については難しいと考える。

先に北海道が公表した想定浸水深は平均で4mほど低くなつたが、これまで通り一貫して備蓄コンテナがある避難場所へ早く避難してもらうことと、自助、共助の啓発を進めるとともに、20分以内に避難が困難な地域については、国の制度も踏まえながら、安全に避難できる施設の整備の検討を進める。

問 大きな被害を受け、家に戻る事が出来ない、被害難民が出たとしたら町はどのような対策を考えているか伺う。

答 一時避難をしたあとに基本的に津波被害を受けていない施設に避難してもらい、応急仮設住宅を北海道と協力し建設する。それでもフォロワーできない時は、周辺の地域で対応してもらう。

問 安否確認は、どの様に行うのか伺う。

答 避難行動して頂いた時に津波避難場所において、各町内会の方たちや、消防団の人たちで簡易な名簿をつくっていただき、避難された方の数を捕捉する。その後、逃げ遅れが居ないかの確認は、「ふれあい連絡票」という基本的な名簿などで行う。

問 避難訓練で、実際に避難した方と避難訓練に参加出来ない方の、安否確認までは必要と思うが伺う。

答 現実的には、災害が起きたときに、地域の皆様が避難行動と共に「安否確認」をするという行為は、とても難しい日頃の訓練の中で、自助、共助の意識の向上や、避難行動の精度を高めて行かなければならないと考えている。

問 ワクチン接種は、4回受けている人もいるが、今後、どのような対策を考えているか伺う。

答 国の動向を注視しながら、オミクロン株に対応した新型コロナウイルスワクチンが供給され次第、早期に接種できるように体制を整える。

問 事前対策として、新型コロナウイルス検査キットの購入支援する考えはないか伺う。

答 今は支援を考えていない。





中河 敏史 議員

総合対策事業について今年度は2倍の事業量になった。さらに国の事業とは別に、クラウドファンディングなどを活用し町単独の防鹿柵整備事業補助金を創設し、4,036m分の整備に取り組むことにした。有害捕獲については4,800頭から5,000頭に引き上げ「駆除」と「防御」の両輪で対策を推進していく。

問 エゾシカ被害対策は

問 クラウドファンディングの金額は。

答 2,300万円となっている。

答 「駆除」と「防御」で対策を推進

問 令和3年9月定例会においてエゾシカの被害対策について質問したが釧路丹頂農業協同組合と検討することのことであったが対策は。

問 捕獲時間の拡大が必要では。

答 発生予防と蔓延防止対策に取り組んできた

問 新規就農者に寄り添った支援を講ずる

問 現在、野菜・畑による新規就農者にはエゾシカ被害対策が適用されているが他の職種にも拡大の必要があると思うが。

答 調査会社の結果が出る前に測量など進めているが、その手法に疑義を覚える。

問 釧路丹頂農業協同組合と協議を行った結果、防鹿柵の設置が農業者の強い要望であることから国、北海道に対し事業の拡充を要望してきたが更に現状を訴え、より積極的に要請を行なった結果、国の補助制度である鳥獣被害防止

問 調査会社の結果が出る前に測量など進めているが、その手法に疑義を覚える。未だ生態がよく解らない内に広大な面積を開発することによる弊害は甚大。道の駅は現施設の直ぐ西隣がベスト。

問 現在、野菜・畑による新規就農者にはエゾシカ被害対策が適用されているが他の職種にも拡大の必要があると思うが。

問 以前に消毒車を備え定期的に消毒していたが改めて行う考えはないか。

問 国や道に道に適切な個体数の管理等を働きかけていく。

問 タンチョウの対応は

答 国や道に道に適切な個体数の管理等を働きかけていく。

問 生息数の増加と共に被害も出始めているが対策について伺う。

問 家畜感染症対策は万全か

問 発生予防と蔓延防止対策に取り組んできた

問 現在接種を実施しているワクチン以外にも事業拡大する必要はある。

問 他のワクチンについて衛生指導協議会で取り扱えるか検討していきたい。

問 車両を抱えては難しいので他の方法はないか釧路丹頂農協と協議していく。

問 以前に消毒車を備え定期的に消毒していたが改めて行う考えはないか。

問 絶滅危惧種を守ろう

答 共生に努める

問 コイトイに生息するトウキョウトガリネズミは、世界最小級の哺乳類だが、まちの大きな財産である。彼の地は現在、開発が進められているが、経済活動に優先してでも自然環境を守ることが大事だ。

問 調査結果を踏まえた施設になり得るか。

答 研究者からも緩衝帯を残すことなどアドバイスもある。

問 生息地に車の進入もあるので、道にも掛け合い柵を設けるなどの対策も講じるべき。

問 調査結果を踏まえた施設になり得るか。

問 温排水の活用は

答 農作物栽培を検討中

問 バイオオマス発電所が稼働し4年経ったが、当初から温排水を活用しての事業化も喧伝され期待している。その計画と地熱発電事業の進捗は。

問 引き続き情報提供に努める。接種後に後遺症等の状況を聞き取っているが、重篤な方は少ない。問い合わせに

問 最大の感染対策実施

問 最大の感染対策は間違った。

問 農業・漁業を守ろう

答 最勢力を集中する

問 基幹農業と漁業はジリ貧。批判を畏れず大局観に立ちリーダーシップを発揮して、潤沢に積み上がるふるさと納税寄付金など資源を集中させパシクル沼での魚類の一大養殖を目指すべきである。

問 パシクルの地の利を活かし、困うなどして海水を引けば養殖は可能である。

問 民間活力を導入しての方策は色々考えられるので、調査もしているが、全勢力を集中して努力する。

問 健康者にマスクは害毒

答 最大の感染対策実施

問 猿ぐつわ如きものを着けさせることは、虐待そのもの。日本の感染対策は間違った。



福地 裕行 議員

議会改革・活性化特別委員会

10月5日 ●議員定数・議員報酬・政務活動費について

●議員定数・議員報酬・政務活動費について

議員定数・議員報酬・政務活動費については、これまで何度も特別委員会で議論を重ねてきて、皆さんの意見はほぼ出尽くしているため、それぞれ採決により取り進めた。

【採決の結果】

議員定数 1名減の12名。

議員報酬 10%upの20万4,600円。

政務活動費 不要。

【主な意見】

<議員定数>

・議員減らすことにより、1人2人が仮に都合つかなくて欠席となった場合も会議が進められるよう現状の方がいいのでは。

・今1名の減でも特別支障がない状況から考えると、来期の任期中には、6,000人台になるだろうと、こうなるとカゲの尻尾みたく、その時にちょん切ってしまうような話では、町民の人達に理解されない。今回は、最低2名削減したい。

<議員報酬>

・現在1名減でも特別支障はない。1名減にしたからと言って、報酬を増額するには無理がある。

・増額した場合は、それなりの活動が担保されなければいけない。それが伴わない限り、難しい。

・役場職員の大体21歳から22歳で手取りが大体16万から17万。それを考えて現状維持。

・若い人が将来的に専属で議員ができるようになっていくために、少しずつ上げていくべき。

・年に2回の手当も出るので、今の報酬の10%の20万4,600円。

・町長の報酬の30%の23万5,000円ではなく、現状の10%アップ。

・25万円。

<政務活動費>

・必要ない。

・政務活動は委員会としての活動によって補えるのでは。

委員会・協議会の活動

総務文教常任委員会

8月1日 ●行政視察のまとめについて

8月19日 ●先進地視察に係る事務調査報告書について

●行政視察のまとめについて

7月19日から21日の行政視察の内容をもとに車での避難する場合、避難タワーの必要性など、白糖町ではどのような対策が必要かをまとめた。

●先進地視察に係る事務調査報告書について

8月1日にまとめた内容を令和4年第3回定例会で報告するため、報告書を作成した。

報告内容については、18から19ページに掲載。

道の駅「しらぬか恋問」移転改築及び白糖駅前広場整備事業調査特別委員会

8月19日 ●事務調査報告について

9月13日 ●道の駅しらぬか恋問改築事業(募集要項・要求水準)の報告について

●先進地視察に係る事務調査報告書について

5月22日から23日に行った行政視察の内容を踏まえ、報告書に盛り込んだ内容など漏れがないかを確認し、令和4年第3回定例会で報告する報告書を作成した。

報告内容については、20から23ページに掲載。

●募集要項・要求水準書について

事業者の募集にかかる、募集要項・要求水準書の原案がまとまり、その内容について、担当課から説明を受けた。

【主な質疑】

問 現段階で進行の遅れはないのか。

答 若干、公募までのスケジュールが予定より遅れたが、開業予定に遅れはない。

問 24億7,100万円の想定されている財源内訳は。

答 「地方創生関連の国庫補助金」と「ふるさと納税」により積み立てられた。基金の活用を検討している。

問 共用空間計画のトランスジェンダーに配慮したトイレの計画だが、具体的にどのようなことか。

答 今の道の駅はいろいろな作りがあり、例えば、同じ男子・女子トイレでも入り口を二つに分けるとか、多目的トイレの設置も右開き左開きなどのトイレの整備というがあるので、そこは事業者から提案を受けながら、そういった配慮もしていただくように話を進めていきたいと考えている。

その他の委員会・協議会活動

●総務文教常任委員会 9月12日

●議会運営委員会 8月29日、9月5日・12日・13日・15日

●広報広聴調査特別委員会 10月7日・13日

行政視察の受け入れ

○長崎県松浦市議会総務委員会

10月6日「白糖高等学校」

・白糖町久遠塾(公営塾)について

10月7日「白糖町役場」

・ふるさと納税について



久遠塾での行政視察



電気自動車充電設備(おどふけ道の駅)

イ 宮城県亶理町

- ① 日時 令和4年7月20日(水) 13時30分～
- ② 視察先 宮城県亶理町役場
- ③ 内容 徒歩と自動車を組み合わせた津波避難

亶理町の津波避難計画は、東日本大震災後に、津波の項目を地域防災計画から抜き出し、一つの独立した計画として策定した。津波避難計画を策定するために専門委員会を組成したが、職員のほか、地元の大学やコンサルの協力を仰いで最初の計画を策定し、その後の2回の改訂は自前で行った。

亶理町の津波避難計画の基本的な考え方は、①津波はいつ来るかわからない②津波警報などの伝達が津波到達までに間に合うとは限らない③新たに整備した防潮堤等を超える津波が来ないとは限らない、とし、町で基本的な対策は策定するものの、絶対の安全を保障するものではないので、自分に最適な避難方法は自らが考えることを大前提としている、とのことだった。

他の地域において、自動車避難を選択することは否定しないが、自動車を使うと渋滞は必ず発生するので、使うならば徹底的な検証は必須であり、自動車を使った避難訓練を何度も重ね、練度を高めることが重要、とのことだった。

その中でも基本的な考え方として、徒歩での避難が可能な人が車を使うと渋滞の確立が高まるので、避難の基本はやはり徒歩、ということだった。

●所見(調査の結果)

東日本大震災後の津波避難への取り組みについて、宮城県仙台市と亶理町へ赴き行政視察を行った。結果として、同じ震災を経験したにもかかわらず、その後の対応については、自治体によってアプローチの仕方が違う点が明らかになった。

亶理町の担当者は、町の人口や地勢、構築物や道路の状況など様々な要因によって、その対応は各々になるのではないかと話していた。

仙台市は、津波避難対策としての道路網の充実が、重要なポイントではあるものの、その整備は長期に亘るとの判断と、東日本大震災時には構築物によって道路が遮断されたり、道路陥没や隆起で通行不能になったりして、発生した渋滞により津波から逃げ遅れ、犠牲者が多数出たこと、更には逆に、津波浸水区域にありながらも、高層の建物に避難し、難を逃れた住民がいた経験から、実際に避難をした高層の建物と併せて、津波避難タワーやビルを津波浸水区域に整備するほうが、短期間に、効率的に津波避難対策を実現できるとの判断から、水平避難よりも垂直避難を選択した、ということだった。

亶理町は逆に、津波浸水区域に農村地帯が多く、地震発生時に倒壊などで道路をふさぐような高層の建物がないこと、普段から自家用車を利用している人が多く、避難に使いたい希望があったこと、道路網が農作業用道路を含めると多種にわたり、避難経路を住民がいくつか持てること、内陸部まで5キロという距離があり、徒歩での避難は困難なことなどの理由から、自動車も避難の手段の一つとすることを選択した。

いずれにしてもその判断は、住民と自治体職員などの関係者が、先の大震災の経験を生かし、議論を重ねることで、得ることができたものといえる。本町には幸いなことに、大津波を体験した者はいないと思われるが、そのことが先進地に比して危機意識が低い要因であり、自戒の念を込めて指摘せざるを得ないところである。今後においては、町で作成した津波シミュレーション動画の活用や国が想定している大規模地震の周知、更には東日本大震災を経験した語り部の体験談を直接聞くなど、震災教育を我々強く続ける必要がある。

住民自身が避難対策を、積極的、具体的に考える手法の検討と併せて、町もこれまで以上に、津波浸水区域を細分化し、各地区、もっといえば住民一人一人の避難方法が、徒歩が良いのか自動車が良いのか、水平避難は可能か、垂直避難しか道はないのか、そのようなことを取りまとめることにより、津波避難タワーや津波避難ビルが真に必要なのか、必要ならば適正な設置場所や数は何基必要なのか、災害発生時の季節や時間等により避難の手法を変える必要はないのかなど、津波浸水区域に住む住民一人一人について、どのような避難行動を選択することが最善なのか、より具体的な方策を、住民との協働により作り上げていくことが肝要と思われるので、意を用いて取り組まれない。

総務文教常任委員会

津波避難タワー及び徒歩と自動車を組み合わせた津波避難について調査報告!!

- 調査期日 令和4年5月9日から8月19日 事務調査
令和4年7月19日～21日 先進地視察

●調査の経過

令和元年5月24日、新たな体制でスタートした常任委員会で所管事務調査の項目が決定し、防災・減災対策に関し、関係課との協議や議会懇談会での町民からの意見、事務調査、現地調査などを続けてきたが、その中でも本町の防災・減災対策に生かすべく、「津波避難タワー」と「自動車を利用した津波避難」について、先進地を行政視察し、事務調査を行った。

●行政視察

ア 宮城県仙台市

- ① 日時 令和4年7月19日(火) 15時～
- ② 視察先・内容

○三本塚長屋敷津波避難タワー(行政視察)

- ・所在地：仙台市若林区三本塚字中谷地 44
- ・事業費：約1億7,000万円(10/10震災復興交付金(国費))
- ・構造規模：鉄骨造 2階建
- ・延べ面積：251.17㎡
- ・収容人数：約150人(屋内避難スペースと屋上の合計)
- ・地上高：屋上9.4m、屋内避難スペースまでは6.2m

○三本塚津波避難ビル(施設見学)

- ・所在地：仙台市若林区三本塚字権田 49-2
- ・事業費：約2億5,000万円(10/10震災復興交付金(国費))
- ・構造規模：鉄筋コンクリート造 3階建
- ・延べ面積：445.33㎡
- ・収容人数：約250人
- ・地上高：屋上11m、3階避難スペースまでは7.5m
- ・その他：消防団施設を併設
(1階 機械器具置場、2階 コミュニティ消防センター)

2011年の東日本大震災では、8mの津波がこの地域を襲来した。仙台市の海岸沿いは平野部で高台が無いことから、津波対策の一つとして津波避難タワー等の建設が決まった。施設としては、タワー型を6か所、ビル型を5か所整備した。それぞれの施設には、津波を回避できる高さに屋内の避難スペースを常備し、屋上も避難スペースとなっている。タワー型とビル型の違いは、屋内避難スペースの階下に、消防団の施設が併設されているかどうかである。

仙台市では、東日本大震災時に自動車避難をした住民が、渋滞で津波の犠牲になった教訓から、重要ではあるが時間がかかる道路整備よりも、緊急対策が可能なタワーとビルの建設を選択した。

避難施設には、車椅子等での避難者対策でスロープが全施設に設置されているほか、屋内避難スペースには災害時の無線機や食料、簡易トイレ、布団や暖房器具なども常備されている。但しそれは、必要最低限の備えであるので、その他必要な物は各自で備蓄するよう、住民に呼びかけをしている、とのこと。

国や県では、海岸線に防潮堤を、更にはその内陸に盛土構造の県道を整備し、津波の力を弱める対策を施しており、タワーやビルの建設と組み合わせた津波対策となっている。



三本塚長屋敷津波避難タワー



三本塚津波避難ビル

災害時にはJRを利用した避難の一次滞留場所になると同時に、避難者に対する災害情報を提供する場として整備をした。

自由通路については、元々この線橋が現在の役場庁舎から100mほど西側に設置されており、役場庁舎と駅舎を結ぶアクセスとしては良いルートではなかったことから、庁舎整備などと一体的な整備を実施した。

自由通路の整備で一番の障害はJRとの関係で、工事自体が営業線の近接であるため、JRに工事を依頼しなければならなかったが、JRは組織の縦割りが強く、担当部署ごとに協議が必要だった。ただ、協力体制は取ってくれたので、しっかりと協議を深めれば、答えは導き出せる、とのことだった。

自由通路を含む駅周辺の整備により、役場庁舎の横から駅舎と交流センターが屋根付きの通路で繋がったことで、人の流れが増えた様子だった。

イ 道の駅及び駅周辺整備に係る施設見学

A 道の駅おとふけ なつぞらのふる里

- ・木造（一部鉄骨造）平屋建て 延床面積 1,960.64㎡
- ・駐車場（普通車 244 台、大型車 22 台、優先 4 台、車中泊スペース 12 台）
- ・飲食店 7 店、飲食スペース 200 席

NHK 連続テレビ小説の「なつぞら」を模したエリアや農業王国・十勝の食を堪能できる飲食スペース、隣接する柳月のスイートピアガーデンとの相乗効果、道東自動車道の音更帯広 IC から1分の好立地など、人を呼び込む交流拠点となっていた。



B 道と川の駅 花ロードえにわ

- ・木造（一部鉄骨造）平屋建て 延床面積 948.63㎡
- ・駐車場（普通車 412 台、大型車 25 台、優先 11 台）

花ロードえにわ自体は、道の駅として、24 時間トイレ、地域の観光情報の発信、土産物、パン工房、飲食店（1 店）など、最低限の施設となっているが、周辺には、農畜産物直売所の「かのな」、花の拠点「はなふる」、コーヒー専門店の「スターバックス」などが立ち並び、更には、花のまちづくりを進める恵庭市らしい7つのテーマからなる大規模なガーデンエリアが一体となった施設となっていた。



C 道の駅 サーモンパーク千歳

- ・鉄骨造平屋建て 延床面積 1,869.49㎡
- ・駐車場（普通車 227 台、大型車 14 台、優先 6 台）
- ・農畜産物直売所、レストラン2店舗、フードコート4店舗、コンビニ

住宅街の近隣にあって、子育て世帯の多い千歳市の特徴を生かした、道の駅には珍しい、目的型の施設となっていた。施設には、子育て世帯をターゲットにした遊具が施設の外と中にあり、飲食店も充実している。また周辺にはサケのふるさと千歳水族館やサケの遡上が見られるインディアン水車、木々に囲まれ水遊びができる小川なども整備されていた。



道の駅「しらぬか恋問」移転改築及び白糠駅前広場整備事業調査特別委員会

道の駅「しらぬか恋問」移転改築及び白糠駅前広場整備事業に関して調査報告 !!

- 調査期日 令和3年3月4日から令和4年8月19日 事務調査
令和4年5月22日～23日 先進地視察・施設見学

●調査の経過

令和3年2月9日に開催された議員協議会において、町から、道の駅「しらぬか恋問」の移転改築と、駅舎を含む駅前周辺の整備事業を検討している内容の説明があり、この町の一大事業について、議員全員で協議をした結果、議長を除く議員全員で特別委員会を組成することが必要、との結論に達し、令和3年第1回定例会において「道の駅「しらぬか恋問」移転改築及び白糠駅前広場整備事業調査特別委員会」を設置した。

委員会では、現状把握や進捗状況に関する町からの説明等を受けるなどしたほか、先進事例の行政視察や現地視察なども行った。

●行政視察等

- ① 日時 令和4年5月22日（日）～23日（月）
- ② 視察先 行政視察 洞爺湖町役場
施設見学 道の駅5か所、駅舎等3か所

③ 内容

ア 洞爺湖町役場行政視察（JR洞爺駅周辺整備及び自由通路について）

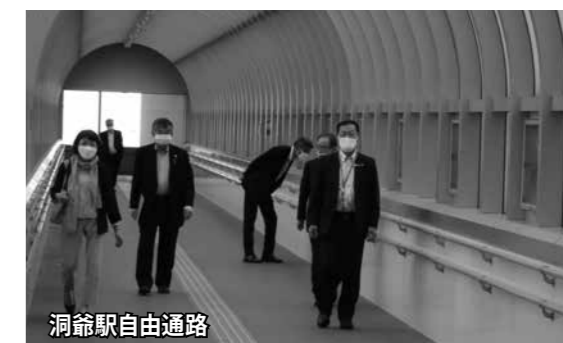
○ 洞爺駅交流センター事業概要

- ・延べ床面積 473.38㎡
（1階 239.75㎡、2階 233.63㎡）
- ・事業期間 平成 15 年度から 17 年度
- ・総事業費 3 億 239 万 8 千円
（うち、国費 1 億 2,201 万 4 千円）



○ 洞爺駅跨線橋通り線（自由通路）事業概要

- ・総延長 254.1 m
（橋梁 79.2 m、階段 24.5 m、歩道 150.4 m、
上屋延長 85.7 m、幅員は 3 m）
- ・その他施設 エレベーター 1 基、取り付け階段 19.1 m
- ・事業期間 平成 14 年度から 17 年度
- ・総事業費 4 億 7,888 万 7 千円
（うち、国費 2 億 4,310 万円）



駅前広場は、災害時にJRを利用して避難することを考慮した多目的広場を想定し、当初からJRとの連携を視野に整備を行った。

町の全体計画としては、2000年の有珠山噴火後に策定した復興計画の基本理念に沿い、防災に強いまちづくりを積極的に進め、子供からお年寄りまで誰もが住みよいまちづくり、新たな火山観光資源を活用した各種産業活性化につながるまちづくりを目指し、各種整備を進めた。

その中で交流センターは、平常時には火山災害や避難など防災に関する理解を深める場とするほか、ピアノのコンサートや地元中学生の吹奏楽部の演奏会、高齢者の健康相談、学習塾など町民の交流等の場としても活用し、

●所見(調査の結果)

① 道の駅「しらぬか恋問」移転改築事業について

道の駅の建設については、整備手法にDBO方式を採用していることから、施設の仕様に詳細な条件を付すことは馴染まないが、委員会で協議・検討した次に掲げる内容について、事業者選定をする際の一助とされたい。また、今後において事業者選定や協定書の締結、基本設計・実施設計の作成等、事業実施の節目には議会への進捗状況の説明を求めるものである。

・道の駅の建設予定地の魅力の一つに、自然環境がある。特にここまで海岸線に近いシチュエーションは、道内の道の駅でもなかなか見ることはできず、この特性を存分に生かした施設の整備が望まれる。ただこの地には、トウキョウトガリネズミやハマナスなど、希少な野生動植物が生息していることから、それらに最大限配慮しつつ、可能なPRにも利用するなど、共生を重視されたい。

・海岸線のシチュエーションを生かすため、キャンプ場の併設やRV車専用スペースの確保、若しくは車中泊専用スペースの確保など、現代社会の情勢にマッチした環境整備に配慮されたい。また、砂浜での遊びを楽しむ方々が想定されるので、洗い場等の環境整備にも配慮されたい。

・集客の多い道の駅は、公営・民営を問わず、相乗効果の期待できる施設が隣接している場合が多い。本町の道の駅建設予定地には、隣接した有力な施設は存在しないが、今後整備が予定されている道立自然公園は、道の駅から数キロ程度の距離であるので、広域的な連携や、相乗効果が期待できる。ただそのためには、新設される踏切と空港短絡線を結ぶ道路の効率的な整備が重要となるので、道の駅の建設と並行して取り組まれたい。

・道の駅に設置されているトイレは、年々設備が向上しており、ベビーチェアやオストメイト、多目的シートなどの設置、車いすや高齢者、子ども連れに配慮した多機能トイレの整備、授乳スペースやオムツ替え台、紙おむつの自動販売機の設置など、例を挙げると枚挙にいとまがない。国土交通省が掲げる「道の駅のトイレ改善に関するチェックポイント」を最低要件として、時代に即した整備に尽力されたい。

・キッズコーナーや遊具が設置されている道の駅は多々あるが、中途半端な遊具等では子どもに敬遠されるので、設置をするのであればしっかりと遊具等とする配慮が必要と思われる。

② 白糖駅前広場整備事業について

予定されている駅舎を含む駅前の周辺整備事業は、建物の建設等は公設、運営は指定管理制度という方式の、公設民営方式で実施されることが決定しており、令和4年度には基本設計が作成される予定である。これまで議会や委員会で行われた調査や議論、町民からの意見、行政視察などの活動から得た意見を以下のとおり集約したので、今後の事業実施の際の一助とされたい。また今後、基本設計・実施設計の作成等、事業実施の節目には議会への進捗状況の説明を求めるものである。

・町の将来にふさわしい、身の丈に合った施設整備とすることが肝要であり、十分検討されたい。

・視察先の交流センターで、飲食店のテナント事業を模索したが、人材不足で実現には至らなかったようであった。年間20万人の利用がある駅でもそのような状況であるので、年間3万人に満たない本町の駅で、飲食店等の経営は相当ハードルが高いと言わざるを得ない。

・視察先の交流センターは、1階、2階ともフリースペースだけであり、平日利用はあまり多くない様子だった。施設利用者の増や駅前の賑わい創出を図るために、他の公共施設を入居(図書館等)させる案には賛同できるので検討されたい。

・建設予定の複合施設の屋上を、一時避難場所に設定することは大変意義があり、賛同できるので、ぜひ実現されたい。また、自由通路についても、津波や地震災害に対応する設計や、津波想定浸水深をクリアすることで、複合施設の避難場所を補完する一時避難場所になり得ないか、検討されたい。

・バスやJRの待ち時間等に利用できる個別のスペースや、少人数が簡単な打ち合わせ等に利用できるフリースペースを確保されたい。またそのスペースには、電源利用やWi-fi環境など、現代の利用に合わせた環境整備も検討されたい。また曳きたてコーヒーやホットスナックなど、多少の軽食を兼ね備えた多様な自動販売機の設置も検討されたい。

・本事業とは直接関連しないが、駅構内のこ線橋について、階段の上り下りが大変だという町民の意見が過去からあるので、これを機会に、何らかの対策をJRに要請されたい。

D 道の駅 だて歴史の杜

- ・鉄骨造平屋建て 延床面積 993.02㎡
- ・駐車場(普通車 161台、大型車 7台、優先 5台)
- ・農畜産物直売所、フードコート2店舗、パン工房

道の駅だて歴史の杜は、中核施設の伊達市観光物産館の周辺約18haの敷地に、総合体育館、市民プール、カルチャーセンター、歴史文化ミュージアムなど多数の施設や、広大な面積の芝生の広場が整備されているほか、明治初期からこの地に入植した巨理伊達家(現在の宮城県巨理町周辺)の武家文化を反映し、城をイメージした石垣や城門、建物の屋根瓦など、周辺施設との一体的な整備がされていた。



だて歴史の杜

E 道の駅 あびら D51ステーション

- ・鉄骨造(一部木造)平屋建て 延床面積 1,371㎡
- ・駐車場(普通車 152台、大型車 17台、優先 4台)
- ・農畜産物直売所、カフェ、ベーカリー、鉄道資料館、SL等の展示

鉄道の要衝であった追分地区の歴史を反映し、鉄道資料館や鉄道文化を紹介するギャラリー、D51-320や特急車両のキハ183系等が展示される珍しい道の駅。周辺に相乗効果を期待するような施設は無いが、D51の屋外展示やミニSLの運行、展示車両の内部公開など、鉄道ファンやちびっこなどをターゲットにしたイベントを積極的に行い、誘客に繋げているようだった。



鉄道資料館内

F 伊達紋別駅

自由通路を見学。自由通路には、北側と南側の両方にエレベーターが設置され自転車も利用できる。自由通路と並行して、駅構内の通路も同時に整備され、南側のエレベーターは、駅構内の利用者と自由通路の利用者が、共有して使用することができる方式になっていた。(駅構内と自由通路の行き来はできない仕組み。)

北側の出口には集会所も併設されている。駅舎自体には手はかけられていなかった。



伊達紋別駅北側

G 白老駅

自由通路を見学。自由通路は、北側と南側の両方にエレベーターが設置されており、自由通路の中間地点には、駅構内のこ線橋と行き来ができる臨時改札が整備され、駅構内のこ線橋にもエレベーターが設置されていた。また、民族共生象徴空間ウポポイの来場者受け入れを念頭に、駅舎内の観光案内ブースや公衆トイレも改修され、駅前広場もバスやタクシー乗り場の新設など、一体的な整備が行われていた。



白老駅自由通路



議員の目



町民の議場です。生活全般に関わる議論の場でもあります。議会に関心を持ち続けていただきたい！ 来年4月23日、町議選の見込みですが、前2回の無投票も視座に勇気と志、そして覚悟を持つ若者の奮起を希います。

撮影：福地裕行 議員



あとがき

9月12日に令和4年第3回定例会を開会し休会中に決算審査特別委員会を行い、15日に会期を2日残して閉会しました。

白糠学園6年生松下一誠君が8月13日～14日に熊本県で開催された「第23回ダイハツ全国小学生ABCバトミントン大会」5～6年生の部で見事優勝しました。9月29日には優勝記念パレードが行われました。松下君バンザイ。

8月20日には白糠こども園落成式と町立白糠学園の開校式が執り行われ、夜には7時から第8回港 in しらぬか花火大会が白糠漁港会場に3年ぶりに1万発の花火がコロナ終息と豊漁を願い町民と白糠の夜空と海を彩り町に明るい話題のつきない8月でした。コロナ対策をしっかりと一日でも早く普通の生活に戻れるよう頑張りましょう。(坂本)



今号の表紙

今号の表紙は、7月20日に総務文教常任委員会で仙台市と亶理町への行政視察の合間に行った震災遺構の荒浜小学校見学の様子です。急に伺ったにもかかわらず、当時校長の川村孝男さんにより施設内の説明を受けました。

鉄筋コンクリート4階建ての校舎には、地震発生直後、児童や教職員、住民ら320人が一時避難をしていました。そこに押し寄せた津波は2階にまで達しましたが、校舎内に避難していた全員が屋上などに逃れて無事でした。

津波の脅威や教訓を後世に伝え、再び津波による犠牲を出さないようにするため、校舎を震災遺構として保存し、さまざまな記録とともに公開している。